

ベストプラクティス企業への職場訪問

厚生労働省

鹿児島労働局 × 鹿児島製茶株式会社

令和7年度 ベストプラクティス企業(※)

・社名 鹿児島製茶株式会社

・業種 緑茶再生加工、卸小売販売

・代表者 代表取締役 森裕之

・本社 鹿児島県鹿児島市南栄3-11

・従業員数 131名

・経営理念

私たち、お客様に喜ばれる商品を提供し続けます。

そのために、

① 従業員が喜んで働ける環境を作り、従業員の能力開発と生活福祉に努め、
従業員一人ひとりの幸せを追求します。

② 株主・取引先をはじめ、すべての協力者との相互繁栄をめざします。



(※)長時間労働削減に向けて積極的に取り組んでいる企業

【長時間労働削減に向けた取組内容】

くるみんマークの取得

- 育児休業、介護休業制度の導入 → 女性の出産育児での退職を防止
- リフレッシュ休暇の導入
→ 全従業員を対象に定休2日+年次有給休暇3日の取得推進
- メモリアル休暇の導入 → 半期に1日 年次有給休暇の取得(計2日)
- 男性の育児休暇取得促進 → 2025年度男性取得率100%
- 子の看護休暇、介護休暇制度
→ 対象者1人で5日付与、2人以上で10日付与(有給対応)
- 短時間正社員制度 → 育児休暇復帰後も安心して働ける職場を目指し、繁忙期にとらわれず、1年を通じて短時間の働き方の導入

プラチナ

くるみんマークの取得

- 男性の更なる育児休暇取得推進
- 女性のキャリアアップ推進

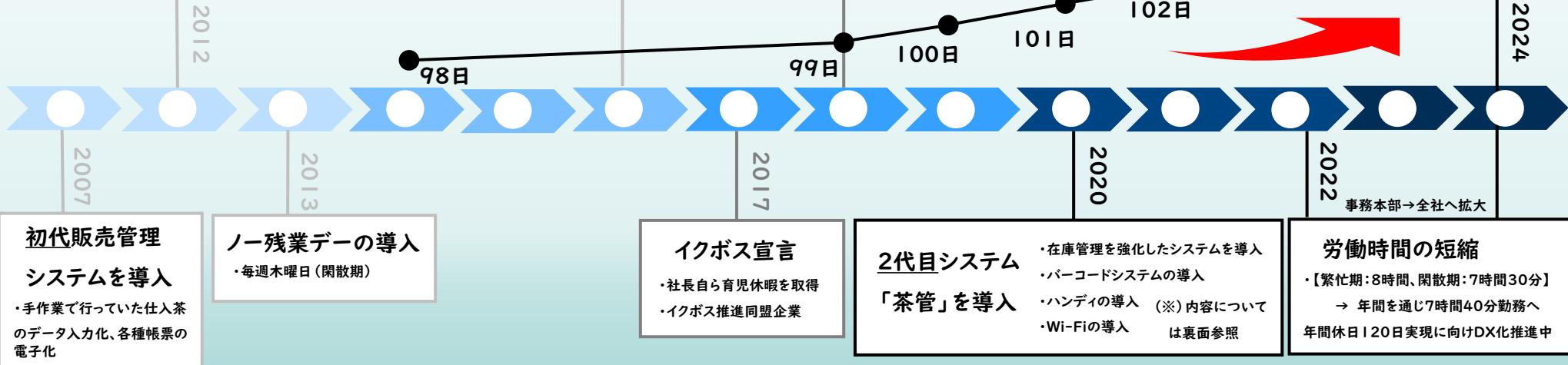


シーズン休暇の導入

- 2012年のメモリアル休暇のを進化
→ 年次有給休暇の取得(計3日)の増加
- 2020年に年4日の取得へ増加

サマータイム時間の導入

- 【通常勤務】
8時始業～17時30分終業
- 【サマータイム】
7時始業～16時30分終業



長時間労働削減のススメ

鹿児島労働局では、過重労働解消に向けた機運の醸成を図るため、地域において長時間労働削減に向けて積極的に取り組んでいる企業（ベストプラクティス企業）を訪問する等により、当該企業の長時間労働削減に向けた取組事例を収集するとともに、広く紹介しています。当日行われた意見交換では、長時間労働削減の取組みのための新システム導入秘話や、人材確保の取組みなどについてお話をいただきましたので、その一部をご紹介します。

（※）本文中 社長＝森代表取締役、局長＝永野
労働局長、取締役事務本部長＝岩松取締役事務
本部長、基準部長＝藤原労働基準部長、課長＝米
山総務部課長

【取締役事務本部長】システム委員会を立ち上げ、全社一体制となって打ち合わせを随時行いました。
【課長】どんなシステムがよいか、会社全体で話をしました。やはり、静かかったようですね。



熱心に質問をする永野労働局長

①販売管理システム～「茶管」システムの導入

▼もともと、午後の入札が終わってから作業を開始していたため、時間外労働が多く発生していた。システムの導入により効率化され、入札と同時に作業が可能になり、時間外労働の削減につながった。



【ハンディ】

②両立支援への取組み

▼短時間正社員制度や育児休暇制度を活用している従業員からお話を伺いました。制度があることがもちろんですが、仕事と家庭の両立のために周囲の理解や協力が重要であり、働きやすい職場であるとお話をいただきました。「茶管」システムも従業員に好評を得ていました。



鹿児島製茶株式会社



取組に当たって、「制度を整え、誰もが長く安心して働き続けられる環境をつくることが課題だと考えました」と語る、5代目・森 裕之社長

岡県がお茶の生産量は多いので、自ずとお茶のシステムを作っている企業も静岡県に多くあります。しかし、今後のメンテナンスを考えれば、地元鹿児島の企業でシステムを開発して、県内の同業他社にも展開できればという想いがあったからこそ、開発から時間をかけて行いました。

【基準部長】それだけよいものができたということですね。話は変わりますが、人材の確保や採用関係はどうでしょうか。

【取締役事務本部長】昨年と今年も

新卒の学生を採用することができます。中途採用の方もいらっしゃいますが、社会的にも人手不足の中で厳しい環境ではありますが、賃上げの実施や、くるみんや、プラチナくるみんの認定取得など、今までやってきた働き方改革の取組みをPRしてまいりました。今までの積み重ねが新規採用につながっているのだと実感します。

【取締役事務本部長】人材の定着も増えてきているので、少しでも近づけるよう、さらにDX化を進めていくたいと考えています。

くように、業務の考え方について従業員といろいろ話をしながら導入を進めています。

【社長】このシステムは、お客様にないをどれだけ売ったということを記録するものです。できるだけ無駄を省き、製造から販売まで、一気に管理できるようシステムにデータを入力込んでいきます。現場の従業員はこの入力に関して抵抗感があったと思うので、なるべく簡単なものにしようと考えて、何年かかけてようやく導入したというものです。

【局長】導入までには結構な時間がかかったようですね。



写真左から

岩松取締役事務本部長、森代表社員、永野労働局長、森代表取締役、藤原労働基準部長

▼これからも、鹿児島県内の働きやすい職場の模範として、更なる取組みをよろしくお願いします。